

## 発達障害等相談センター運営事業

### <内容>

発達障害児・者等に対する専門職（社会福祉士、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）による身近な相談窓口を設置（宇部フロンティア大学に業務委託）

### <実績>

内容		平成 27 年度	平成 28 年度
1. 発達、生活相談 (相談件数)	相談実件数	299 件	488 件
	相談延べ件数	936 件	1125 件
2. 保護者サポート	保護者グループ	実施 8 回 参加者延べ 39 名	実施 20 回 参加者延べ 97 名
	ペアレントトレーニング		実施回数 12 回 参加者延べ 44 人
3. 支援者育成	スーパーヴァイズ	22 件	21 件
	講師派遣	講師派遣 2 件 参加者延べ 98 人	講師派遣 7 件 参加者延べ 175 人
4. 普及、啓発	講演会	2 回開催 参加者延べ 357 人	1 回開催 参加者延べ 247 人
5. 関係機関との連携	関係機関の会議	11 機関 延べ 39 回	12 機関 延べ 42 回

### <評価>

- ・平成 27 年度と比較し、相談実件数は約 60%、述べ件数は約 40%増加している。対象は当事者、その家族のみならず、教員、勤務先の職員など支援者の困り感にも寄り添い、臨床心理士等による心理検査等の実施や専門的知見での適切な評価、そして、気軽に相談ができる場として好評を得ている。

- ・医療機関から「そらいろ」を紹介されることもあり、心理検査結果等を通して本人の特性理解や家族、関係者の関わり方について助言を行っており、医療機関と差別化された専門的な機関としての役割を担っているといえる。

- ・保護者による自助グループが増えたことやペアレントトレーニングの実施により発達障害の子を持つ保護者の日常生活の困り感を軽減できており、保護者への支援も充実している。

- ・講師依頼への対応や講演会の実施、関係機関の会議参加で支援者育成、普及啓発、ネットワーク構築に努めている。

### <今後の課題>

個別の教育支援計画やパーソナル手帳等の活用状況の把握等により、幼児期から成人期までの切れ目のない継続した支援へ活かすとともに、アウトリーチ等による相談支援体制を強化する。